

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について



2015年5月

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

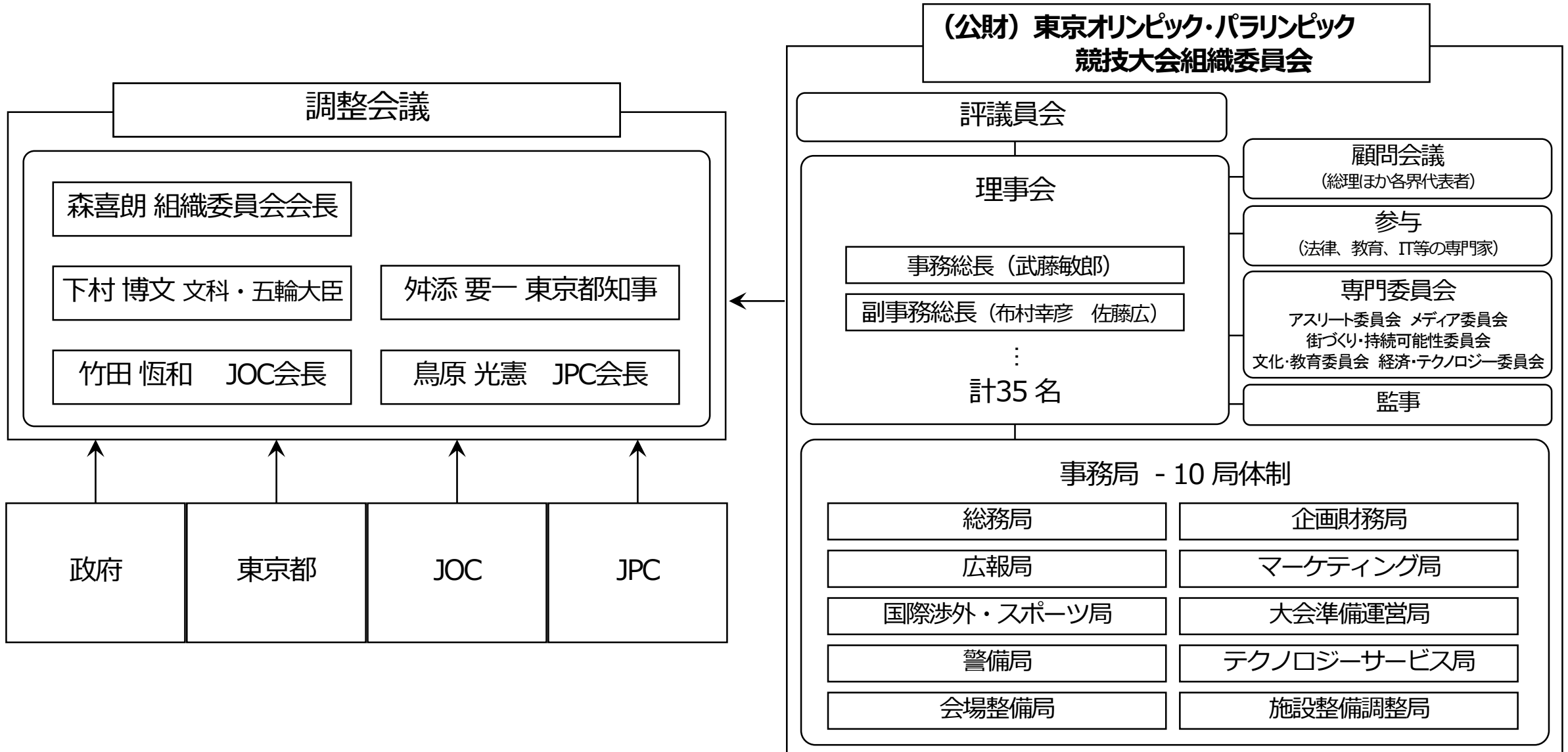
1. 大会開催概要

※ [立候補ファイル段階のもの](#)

- 「オリンピック」 開催期間：2020年7月24日（金）～8月9日（日）（24日は開会式）
競技数：28競技 306種目
参加実績：204国と地域、10,500選手（2012年ロンドン大会の例）
- 「パラリンピック」 開催期間：2020年8月25日（火）～9月6日（日）
競技数：22競技 527種目
参加実績：164国と地域、4,200選手（2012年ロンドン大会の例）



1. 準備推進体制



2. ファンクショナルエリア

IOC・IPCが提示する6つの分類の下に、大会運営に必要な52のファンクショナルエリアを設置

大会プロダクトと 経験	クライアント サービス	会場 とインフラ	大会サービス	ガバナンス	コマーシャルと エンゲージメント
<ul style="list-style-type: none"> •競技 •セレモニー •都市活動・ライブサイト •文化 •教育 •聖火リレー 	<ul style="list-style-type: none"> •放送サービス •IF（競技に含まれる） •マーケティング パートナーサービス •NOC・NPCサービス •オリンピック・パラリンピックファミリーサービス（要人へのプログラム・プロトコール含む） •人材管理 •プレスオペレーション •観客の経験 	<ul style="list-style-type: none"> •エネルギー •会場マネジメント •会場・インフラ（会場設営・一般的なインフラ含む） •選手村マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> •宿泊 •アクセディテーション •出入国 •清掃・廃棄物 •ドーピングコントロール •イベントサービス •飲食 •言語サービス •ロジスティックス •メディカルサービス •セキュリティ •標識・サイン •テクノロジー •輸送 	<ul style="list-style-type: none"> •都市運営調整 •コミュニケーション・コーディネーション・コマンド・コントロール •財政 •国・自治体調整 •情報・知識マネジメント •レガシー •法務 •運営実践準備管理 •パラリンピック インテグレーション •計画・調整 •調達（レート・カード含む） •リスクマネジメント •持続可能性 •テストイベント マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> •大会のブランド・アイデンティティ・ルック •ブランド保護 •ビジネス開発 •コミュニケーション（デジタルメディア・出版物含む） •ライセンス •チケット

3. 財政

(単位：億円)

収 入		3,013
IOC負担金		695
TOPスポンサー		295
国内スポンサー		820
チケット売上		683
ライセンス商品・切手		123
寄付金		100
その他		297

(単位：億円)

支 出		3,013
競技会場		679
選手村		164
IBC/MPC・その他会場		102
人件費		221
システム・電気通信		371
式典及び文化		87
医療サービス・セキュリティ		116
ケータリング		58
輸送		206
テストイベント		34
管理・広告宣伝		274
パラリンピック		140
その他		561

注) 金額は立候補ファイル段階のもの

うちTokyo 2020の仮設整備費負担額	723
-----------------------	-----

1. 大会開催基本計画の概要(1)

1章 大会ビジョン

- 大会ビジョン（オリンピック・パラリンピック共通）
スポーツには世界と未来を変える力がある。1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」 **「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」**
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を3つの基本コンセプトとし、
史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。
- パラリンピックへの取組姿勢：同一都市として初めて2回目のパラリンピック大会の開催であり、パラリンピックムーブメントの発展に貢献し、活力のある共生社会を実現

2章 大会のクライアント

- クライアントを8つのカテゴリーに分類
①選手・NOC/NPC ②IF ③マーケティングパートナー ④オリンピック・パラリンピックファミリー/要人
⑤OBS/ライツホルダー（放送権者） ⑥プレス ⑦観客 ⑧スタッフ
- それぞれのニーズ・要望を十分に把握し、日本人のおもてなしの心を大切にして、各クライアントに焦点をあてた計画と運営を確実に実施

3章 会場・インフラ

- 東京2020大会として最高の舞台を用意するため、アスリートのベストパフォーマンス、アクセシビリティ等に配慮し、将来の有効活用を見据えて整備
- 競技会場の具体的な配置等については、現在、アジェンダ2020等を踏まえ、レガシー、都民・国民生活への影響、コスト増への対応等の観点からレビューを実施中

1. 大会開催基本計画の概要(2)

4章 大会を支える機能（ファンクショナルエリア）

- ・ 競技、放送サービス、エネルギー、セキュリティ、ドーピングコントロールといった大会運営に必要な52のファンクショナルエリア（FA）について、それぞれの機能を明確化
- ・ 大会ビジョン等を踏まえながら、安全・安心で確実な大会運営と、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境づくりを目指すと共に、日本や東京ならではのサービス提供の観点も重視し、各FAのミッション、主要目標、業務・役割を記載

5章 推進体制

- ・ 大会開催までのロードマップ（基礎、計画立案、実践準備、大会運営、解散・レガシーの各フェーズ）に基づき準備を推進。
- ・ 東京2020組織委員会の組織構造、関係者との連携・役割分担、推進体制を早期に明確化し、組織内外の一体的な取組を推進。
- ・ 限られた予算と限りないアイデアで、最高の大会を実現。

6章 アクション&レガシー

- ・ 2020年に東京で行われるスポーツ大会としてだけでなく、2020年以降も日本や世界に様々な分野のレガシーを残す大会とする。
- ・ 「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オルジャパン・世界への発信」の5本の柱ごとに、組織委員会、政府、東京都、JOC/JPC、経済団体等が一丸となり、計画当初から包括的なアクションを推進。
- ・ 2016年～2020年の具体的なアクションや2020年以降のレガシーを「アクション&レガシープラン」として2016年に取りまとめ、リオ大会以降、アクションを本格化。

7章 エンゲージメント

- ・ 国内外の人々に対し、多種多様な参加型プログラムを通じて、大会に共感し大会を共に作り上げていく応援者の最大化を図る。
（東京2020独自のエンゲージメント戦略）

2. パラリンピック競技大会

■ パラリンピックの大会準備・運営とそのレガシー ■

- ・ 初めて同一都市として2回目のパラリンピック競技大会を開催
- ・ アクセシビリティを重視した競技施設や選手村の整備
- ・ 障がい者スポーツの振興
- ・ パラリンピックを契機とする人々の意識改革、共生社会の実現

■ 組織運営におけるパラリンピックの重視 ■

- ・ 組織委員会にパラリンピック担当部長、パラリンピック計画課長、関係職員を配置
- ・ JPCやパラリンピアンなどパラリンピック関係者が調整会議、理事会、アスリート委員会等に参画

1. IOC理事会において報告し、了承を得た競技会場

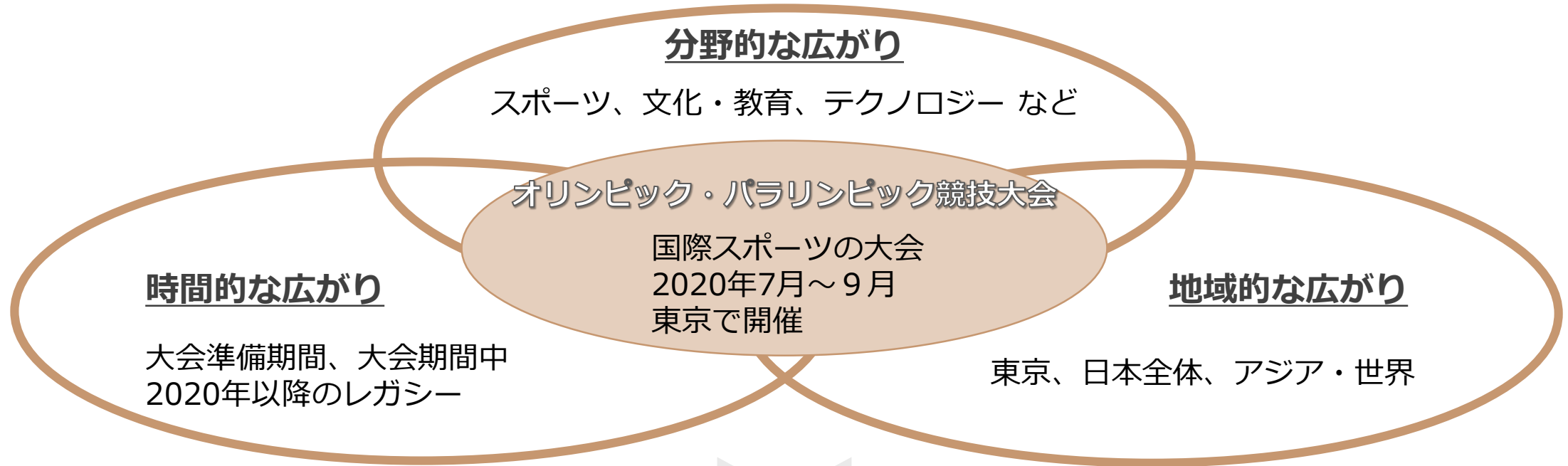
競技	会場	競技	会場
アーチェリー	夢の島公園	ハンドボール	国立代々木競技場
陸上競技	オリンピックスタジアム	ホッケー	大井ホッケー競技場
バスケットボール	夢の島ユース・プラザ・アリーナB → さいたまスーパーアリーナ	柔道	日本武道館
ボクシング	国技館	近代五種	(フェンシング) 武蔵野の森総合スポーツ施設
ボート	海の森水上競技場		(水泳・馬術・ランニング・射撃) 東京スタジアム
カヌー (スプリント)			射撃
カヌー (スラローム)	葛西臨海公園隣接地	卓球	東京体育館
馬術 (馬場・障害・総合)	夢の島競技場 → 馬事公苑	テニス	有明テニスの森
馬術 (クロスカントリー)	海の森クロスカントリーコース	バレーボール	有明アリーナ (インドア)
体操	有明体操競技場		潮風公園 (ビーチバレーボール)
ゴルフ	霞ヶ関カンツリー倶楽部	ウェイトリフティング	東京国際フォーラム

※ 2月のIOC理事会を踏まえ、各NF（国内競技団体）、IF（国際競技団体）と共に具体的な運営上の課題に取り組んでいく。

2. 引き続き調整を進める競技会場

	競技	会場（立候補ファイル）
水泳	競泳・飛込・シンクロ	オリンピックアクアティクスセンター
	水球	ウォーターポロアリーナ
	マラソン 10km	お台場海浜公園
バドミントン		ユース・プラザ・アリーナA
自転車競技	トラック・レース	有明ベロドローム
	ロード・レース	皇居外苑（スタート）、武蔵野の森公園（ゴール）
	マウンテンバイク	海の森マウンテンバイクコース
	B M X	有明B M Xコース
フェンシング		東京ビッグサイト・ホールB
サッカー		オリンピックスタジアム、東京スタジアム、札幌ドーム、宮城スタジアム、埼玉スタジアム2002、横浜国際総合競技場
ラグビー		オリンピックスタジアム
セーリング		若洲オリンピックマリーナ
テコンドー		東京ビッグサイト・ホールB
トライアスロン		お台場海浜公園
レスリング		東京ビッグサイト・ホールA

広がりのある取組を進めるための5本の柱



それぞれの分野で「ベスト」を目指し、多様な分野を「調和」させ、次世代に「継承」する



1. エンゲージメントの意義

大会本番に“競技を見るだけ”ではなく聖火リレー、ボランティア、文化教育イベント等、大会前に様々なプログラムを実施することで“より多くの人と共に大会を作って行こう”という考え方。

2. 被災地との連携

被災3県、組織委員会、国、都、JOC、JPC等の代表からなる「連絡協議会」を設置し、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に伴う復興支援策を検討。

■ 復興支援策の例 ■

- 1) 聖火リレー
- 2) 被災地での事前キャンプ
- 3) 文化プログラム – 祭りなど、元気な東北の姿を世界に発信
- 4) 被災地での競技開催 – 宮城スタジアムでサッカー予選リーグを実施

3. 全国の自治体との連携

■ 全国自治体との連携の例 ■

- 1) 聖火リレー
- 2) 事前キャンプ
- 3) 文化プログラム
- 4) 地域の特産物等を生かした大会運営
- 5) オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

4. 大学との連携

■ 大学との連携の例 ■

- 1) オリンピック教育の推進
- 2) グローバル人材育成
- 3) パラリンピックの理解促進
- 4) 広報活動
- 5) イベントの開催

5. 事前キャンプ

■ 事前キャンプ ■

- 大会に参加するアスリートのコンディション調整やパフォーマンス維持等のため、各国のNOCやNPC、NFなどが任意に実施する大会期間前のトレーニング
- 事前キャンプの実施に係る一切の決定権は、実施する各国のNOCやNPC、NFなどが有している

■ 候補地ガイド ■

- 各国のNOCやNPCに対して国内の事前キャンプ候補地を紹介するため、組織委員会が作成。
- リオ・デ・ジャネイロ大会の開催に合わせて公表し、すべてのNOC及びNPCに情報提供
- 各国のNOCやNPC、NFとの交渉窓口は誘致する自治体が担う

■ 応募要項 ■

(対 象) 国内の全自治体（都道府県及び市区町村）

(期 間) 2015年4月1日～2018年9月30日

(応募情報) 練習施設（会場）、宿泊施設、交通アクセスや医療に関するもの など

(要 件) IFの技術要件を満たす練習施設（会場）及び宿泊施設を有すること